

美の国アクティブカレッジ 総合開講式・記念講演

会場：秋田県生涯学習センター3階 講堂



4月20日（土）に、平成25年度「美の国アクティブカレッジ」の総合開講式と開講記念講演が行われました。

開講記念講演は「江戸絵画の中の秋田蘭画」というテーマで、東京大学名誉教授でもある秋田県立近代美術館の河野元昭館長を講師に行われました。

その中で河野館長は「江戸時代の絵画はあくまで『洋風画』であり、陰影法や遠近法は使用しているものの『西洋画』と呼べるものではない」とお話しになり、写真を提示しながらわかりやすく説明されました。

また、他の絵の模倣について触れ、「有名な日本画家でも他人のスケッチを模倣することはあった。模倣を元に自分の画法を確立していくのだからすごい」という説明に、参加者は大きくうなずいていました。

「解体新書」の人体図を担当した秋田藩士、小田野直武が描いた「上野不忍池図」については「中心に芍薬の花を植えた鉢があるが、実際に不忍池の前に鉢を置いて描いたわけではない。虚実を併せ持って描く日本画の技法を『洋風画』に取り入れたものである」と説明されました。

また、秋田藩8代藩主佐竹義敦（曙山）の絵画にも触れ、「陰影法と遠近法を巧みに用いたすばらしい絵画。こういった絵画が短期間で描かれなくなったのは残念だ」とお話しになり、170名を超える参加者からは「河野館長の講話はたいへんわかりやすく、秋田蘭画についての理解も深まった」などの感想が寄せられました。



河野元昭 秋田県立近代美術館館長

